

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 おむすびやま		
○保護者評価実施期間	R7年12月1日		～ R8年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○従業者評価実施期間	R7年12月1日		～ R8年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	R8年2月19日		

○分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日々のアセスメントや職員間の情報共有を通じて、こどもの変化を捉えながら支援内容の見直しを行っている。 また、保護者との連携を大切にし、安心して利用できる環境づくりを心がけている。	日々のアセスメントや職員間の情報共有を通じて、こどもの変化を捉えながら支援内容の見直しを行っている。 また、保護者との連携を大切にし、安心して利用できる環境づくりを心がけている。	職員研修の充実や外部との連携強化を図り、より専門性の高い支援の提供につなげていく。
2	多様な活動(体験・創作・地域交流など)を通じて、こども達の「できた!」を引き出し、自己肯定感を育む支援ができていく点。	活動プログラムが固定化しないよう、季節行事や地域との関わりを取り入れながら、日々工夫を重ねている。 また、職員間での振り返りを大切にし、チームで支援の質向上に取り組んでいる。	地域資源の活用や他機関との連携をさらに深め、こども達の経験の幅を広げる支援を充実させていく。
3	職員間の連携が図られており、日々の支援について振り返りと改善を行いながら継続的に質の向上に取り組んでいる点。	支援前後の打ち合わせや記録の徹底により、こどもの状況を共有し、一貫した支援を行っている。 また、保護者からの意見を積極的に取り入れ、運営改善につなげている。	PDCAサイクルをより明確に運用し、データや記録を活用した客観的な評価・改善の仕組みを強化していく。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援内容や取組について、職員間での共有にばらつきが見られることがある。	日々の業務が多忙であることや、記録・伝達の方法が統一されていないことにより、必要な情報が十分に共有されにくい状況があるため。	支援前後の打ち合わせの充実や記録様式の見直しを行い、誰が見ても分かる情報共有の仕組みを整備する。あわせて、定期的な振り返りの機会を確保し、チーム全体での共通理解を深めていく。
2	活動プログラムや支援内容について、さらなる多様化や発展の余地がある。	日々の支援において安全面や安定した運営を優先する中で、新しい取り組みの導入や外部との連携が十分に広げられていないことが要因と考えられる。	地域資源の活用や外部機関との連携を積極的に取り入れ、体験活動や社会参加の機会を増やしていく。また、職員間でアイデアを出し合う場を設け、活動内容の充実につなげていく。
3	支援の質の評価や改善に関する取組について、より体系的かつ客観的な仕組みの構築が必要である。	日々の支援記録や振り返りは実施しているものの、それらをデータとして分析・活用し、計画的な改善につなげる仕組みが十分に整っていないため。	PDCAサイクルを明確にし、定期的なモニタリングや評価の場を設定することで、支援の質を継続的に見直す体制を強化する。あわせて、職員研修を通じて評価・改善の視点を共有し、組織全体の質の向上を図っていく。